

PP1

カナダにおける女性スポーツ
ジェンダー・エクィティは達成されたか？

M. アン ホール
アルバータ大学、カナダ

日本スポーツとジェンダー学会第5回記念大会（京都、2006年7月1-2日）への基調講演要旨

PP2

プレゼンテーションのテーマ

- (1) スポーツにおけるジェンダー・エクィティを実現していくために、私たちは何をしてきたのか（特にこの10-15年に）？
- (2) 採用された諸戦略 何がうまくいったのか？
- (3) まだジェンダーの不公平が残っている領域
- (4) カナダのスポーツ界でジェンダー・エクィティを達成していくのに、女性運動（フェミニズム運動）はどのように関係したか
- (5) 変革のプロセスで大学等のフェミニズム研究者が果たす役割
- (6) カナダにおける（そして世界における）女性スポーツの未来

PP3

スポーツにおけるジェンダー・エクィティを実現していくために、カナダでは何が必要されてきたか？

最近の10年から15年に焦点を合わせて

以下に挙げますのは、特にこの10年から15年にわたって、なぜカナダのスポーツ界で少女や女性の状況を大きく改善できたように見えるのか、を説明するほんの二、三の例です。

PP4

カナダの女性アスリートは国際舞台で顕著な成功を達成しています。

2006年の冬期オリンピック

- ・カナダは19個のメダルを獲得しました。
- ・そのうち14個は女性によるものでした。
- ・金メダルは5個で、4個が女性スポーツでのものでした。
- ・銀メダルは8個で、5個が女性によるものでした。
- ・銅メダルは6個で、5個が女性によるものでした。

PP5 （オリンピックで活躍するカナダの女性アスリートたちの写真）

PP6

2006年の冬期パラリンピック

- ・カナダは13個のメダルを獲得しました。
- ・そのうち6個が女性によるもので、1個が男女混合チームによるものでした。
- ・金メダルは5個：うち1個が女性、1個が男女混合チーム
- ・銀メダルは3個：うち2個が女性
- ・銅メダルは5個：うち3個が女性

カナダの女性アスリートは、多くのナショナルチーム・メンバーの50%（ときにはそれ以上）を占めています。

カナダの女性アスリートは、健康・医療サービスやスポーツ科学のサービスはもちろん、トレーニングや競技環境へも平等にアクセスできます。

PP7

2010年 Legacies Now(現在の遺産)は、女性をスポーツに取り込む戦略です（オリンピックに向けた戦略です）。

この戦略の実施は、準備期間の間（2003-2010年）あらゆる年齢・あらゆる背景の少女と女性のスポーツ参加および身体活動を向上させるために現在なされている努力を調整し、強化することにあります（特にブリティッシュコロンビア州で）。

焦点領域は、リーダーシップ・アクセス・参加・アウェアネス・研究です。

PP8-9

カナダにおける女性スポーツ擁護組織のネットワークの成長

カナダにおける女性スポーツ擁護組織の例の幾つかです。

- ・CAAWS（カナダ女性スポーツ振興協会）1981年設立の全国組織
- ・proMOTION Plus(ブリティッシュコロンビア州)、InMotion Network(アルバータ州)、Égale Action(ケベック州)のような地方組織も拡大しつつあります。
- ・こうした組織は、より多くの少女や女性がスポーツや身体活動に参加することをめざした多様なプログラムを後援しています。

PP10

サッカーやアイスホッケーのようなチームスポーツに参加する少女や女性が増大している証拠があります。（統計をご覧ください）。

少女サッカーや女性サッカーの成長

- ・2004年の登録選手数は347,228人（全体の42%）
- ・1996年から比べると倍以上になっています。

PP11

少女アイスホッケーや女性アイスホッケーの成長

- ・2001-02年の登録選手数は54,563人
- ・この10年で400%の増加です。

PP12

コーチングにたずさわる女性

- ・女性がコーチする機会をスポーツのあらゆるレベルで増やそうという全国キャンペーン。
- ・カナダコーチング連盟によって指揮されています。
- ・プロのコーチを育成する助成金、修行中のコーチへの助成金、全国コーチング協会の奨学金があります。
- ・1987年以来、500人以上の女性コーチが約300万ドルを支給されています。
- ・支援資金の増加に関しては、例えば『コーチングにたずさわる女性のためのカナダジャーナル』参照。

PP13

(全国コーチ資格プログラムがコーチになるよう呼びかけるHP)

PP14

カナダ大学間スポーツ エクィティ実施状況アンケートに対する加盟大学の回答 最終報告

- ・カナダの約50大学が加盟
- ・ほとんどの大学は、何らかのエクィティ・ステイトメントを出しています。
- ・競技部門の58%は、具体的なエクィティ・ステイトメントを出しています。
- ・優良実施大学の証明(例えば、女性のスポーツ・プログラムを進めるために特別な基金を設けている、ジェンダー・エクィティを達成するために詳細な行動計画を持っている)

PP15

カナダ・スノーボード連盟 政策タイトル: スポーツにおけるハラスメント

- ・ジェンダー・エクィティ問題やその実践を査定するために各スポーツ組織から集められた情報。
- ・各スポーツ組織は、論争的になっている諸問題(例えば、同性愛、セクシュアル・ハラスメント、性的虐待)にますます本気で取り組むようになっていきます。

PP16

採用された諸戦略 何がうまくいったのか?

こうした変革をもたらすためにどのような戦略がとられてきたのでしょうか?

そのなかでどれが最もうまくいったのでしょうか?

PP17

ジェンダー・エクィティ戦略

- ・ 1990年代：「平等(equality)」から「公平(equity)」へのシフト
- ・ 平等 = 機会の平等
 - ・ 女性（および他の恵まれない人々）がターゲット集団とされました。
 - ・ 焦点は女性そのものに合わせられました。
- ・ 公平 = 焦点は制度（例えば、スポーツ）に合わせられました。
 - ・ 女性がスポーツできるようになるには、制度が変わる必要がありました。

PP18（続き）

- ・ 平等は、全ての人に同じスタートラインを用意することに焦点を合わせます。
- ・ 公平は、全ての人に同じフィニッシュラインを提供することを目標とします。
- ・ 各女性スポーツ擁護組織（例えば、CAAWS）はこの移行を支持しました。
- ・ CAAWSは、ジェンダー・エクィティを実現するために、他のスポーツ組織と協働しています。

PP19（続き）

- ・ ジェンダー・エクィティはスポーツカナダの政策声明へ組み込まれています。
現在行われているカナダのスポーツ政策は、2002年4月に、連邦政府・州政府・準州政府に支持されています。

- ・ カナダのスポーツ政策(2002-2012)の目標は、次の4点です。

成績の向上

2012年までに、運動能力をもった予備軍を拡大し、最高レベルの全国競技会や国際大会での公正な手段によって獲得されたカナダ・アスリートたちの実績やランキングを、国際水準に達するようにすること。

参加の向上

2012年までに、スポーツ参加がカナダの人々の多様性を反映し、もっともっと多くのカナダ人が、あらゆるレベルで、またあらゆる参加形態で、良質のスポーツ活動を行えるようにすること。

収容能力の向上

2012年までに、倫理的な基盤に基づいた参加システムやアスリートを中心とした能力開発システムに不可欠な構成要素が整備され、かつ必要に応じて継続的に進展され強化されること。

相互作用の向上

2012年までに、スポーツシステムの構成要素を、関係者間の多大な協力と意思疎通の結果として、より整合化され調整されたものにする。

PP20（続き）

カナダのスポーツ政策は、スポーツ参加の障害になっているものを明確に認識し、それらの障害を取り除くことで、スポーツを誰にとってもアクセスしやすいものにするを要求しています。

スポーツ参加の障害になっているのは、社会的、言語的、文化的、経済的なものでありえます。少女や女性、ハンディキャップを負った人々、原住民の人々、マイノリティの人々などは、カナダのスポーツシステムでは、アスリート・参加者としても、リーダーとしても、十分に代表されていない状態が続いています。それに加えて、これまでの努力にもかかわらず、フランスカナダ系の人々

にとっては、スポーツシステムの中に、言葉に基づく障害が依然として存在しています。特にナショナルチーム・レベルで。

PP21 (続き)

・スポーツ基金と政策説明の枠組み (スポーツカナダ)

全国スポーツ組織 (NSO) は、スポーツカナダから基金を得るには、エクィティとアクセスを公約していることを証明する公式の政策を持っていなければなりません。とりわけ、女性、ハンディキャップを負った人々、原住民の人々に対するエクィティとアクセスであって、それは、アスリート・コーチ・審判・ボランティア・リーダーに関して、です。

* こうした女性とスポーツに関する公式の政策は、女性の参加や代表があらゆる領域 (アスリート、コーチ、審判、ボランティア、リーダー) で 40% を越えている NSO には求められていません。

PP22 (続き)

・こうした基金政策は有効でしょうか？

それを知るのはとても困難です (利用しうるデータがありません)

多くの巨大 NSO はスポーツカナダの資金に依存していません。

NSO のウェブサイトは、ジェンダー・エクィティ政策には言及していません。

NSO の「戦略プラン」は、ジェンダー・エクィティに言及していません。

政策をもつことと、そうした措置をとることとは同じことではありません。

PP23 (続き)

・情報テクノロジーをうまく使うこと

情報をうまく保管し、アクセスしやすくすること

ウェブサイトをたえず更新すること

ニュースレターや会報を載せること

PP24 (続き)

・不平等を法的に訴えること

連邦および地方の人権委員会へ持ち込まれた諸事件

これまでその多くが勝訴してきました。

この方法はいまでは、1970 年代や 1980 年代ほどにはとられていません。

PP25

カナダにおいてまだジェンダーの不公平が残っている領域

私たちは幾つか成功もしてきましたが、ジェンダーの不公平が残っている領域もまだまだたくさんあります。次に挙げる統計や例がこうした問題を示しています。

PP26

身体活動への参加

- ・成人女性の 54%が、健康を保つのに十分な活動をしていません（男性は 48%でした）
- ・65 歳以上の女性の 65%が、健康を保つのに十分な活動をしていません（男性は 50%でした）

出典：カナダ・フィットネスとライフスタイル研究所 2004 年の身体活動モニター

PP27

スポーツへの参加

- ・15 歳以上のカナダ女性の参加率は低下しつつあります。
 - ・1992 年：38.0%
 - ・1998 年：26.0%
 - ・2004 年：23.4%（男性は 39%）
- ・男女ともに参加率は年齢とともに低下しています。

PP28

子どもや若者における身体活動やスポーツ

- ・カナダのティーンエイジャーの半分以上が座りがちの生活をしています。
- ・最適な成長や発達の国際ガイドラインに見合う量の身体活動を毎日している者は、21%にすぎません。
- ・15 歳から 19 歳のティーンエイジャーは、12 歳から 14 歳のティーンエイジャーよりも座りがちな生活を送っています。（51%）
 - 15 歳から 19 歳の少女の 63%は身体活動が不足しています（少年は 44%）
 - 12 歳から 14 歳の少女の 55%は身体活動が不足しています（少年は 43%）
- ・カナダの子どもや若者たちの肥満率は増加しており、世界で最も高い国の一つです。

出典：CFLRI 2004 身体活動モニター

PP29

多様性の諸問題

- ・原住民の少女や女性たちはしばしばとても不利益をこうむっており周縁化されています。
- ・明らかにマイノリティの女性たち（14%）はスポーツや身体活動で十分に代表されておりません。
- ・ハンディキャップをもった女性の参加は、そうでない女性より遙かに低くなっています。

PP30

スポーツリーダーにおける女性

- ・組織スポーツでは 117 万人のボランティアの参加がありました（およそ 20 人に 1 人のカナダ人が参加したことになります）
- ・ボランティアの 64%が男性、36%が女性でした。
- ・コーチの 73%が男性、27%が女性でした。
- ・役員の 61%が男性、39%が女性でした。

出典：コミュニティ・スポーツのボランティアたちのプロフィール(2005)

PP31

オリンピックコーチの統計

- ・ 2000年のシドニー大会
 - 女性は、ヘッドコーチ 30 人のうちの 4 人 (13%)
 - 女性は、全コーチ 86 人のうちの 16 人 (18%)
- ・ 2002年のソルトレイクシティ大会
 - 女性は、ヘッドコーチ 14 人のうちの 3 人 (21%)
 - 女性は、全コーチ 57 人のうちの 14 人 (24%)
- ・ 2004年のアテネ大会
 - 女性は、ヘッドコーチ 27 人のうちの 2 人 (7%)
 - 女性は、全コーチ 82 人のうちの 8 人 (10%)
- ・ 2006年のトリノ大会
 - 女性は、全コーチ 68 人のうちの 10 人 (14.7%)

PP32

NCCP (全国コーチ検定プログラム) のジェンダー比の統計 (2005 年 11 月 30 日)

PP33

メディア報道

- ・ 伝統的なスポーツメディア (例えば、印刷メディア、TV) は “まさしく” 男性ばかり。
- ・ プロの男性スポーツがきわだっただけ多い。
- ・ メジャーなスポーツイベント (例えば、オリンピック) の期間には、女性の報道も多い。
- ・ 新しいメディア (例えば、インターネット) ではより多くの報道、画像、議論が可能になります。
- ・ 女性アスリートの画像はまだ問題的。
- ・ スポーツメディアのなかに女性がほとんどいないこと。

PP34

(globeandmail.com の画像)

PP35

カナダのスポーツ界でジェンダー・エクィティを達成していくのに、
女性運動 (フェミニズム運動) はどのように関係したか

PP36

フェミニズムとジェンダー・エクィティ

- ・ 1960 年代後半：カナダにおける組織的な (第 2 波) フェミニズム運動の始まり
- ・ 1970 年代：

スポーツにおける性差別が法的に訴えられた。

政府がスポーツに関わるが多くなる。

不平等への障害が徐々に認識されていく。

1974年：女性とスポーツに関する最初の全国会議

PP37 (続き)

・1980年代：

1980年に第2回全国会議。

1980年に「フィットネスとアマチュアスポーツに関する女性の活動計画」設立。

1981年にCAAWS(カナダ女性スポーツ振興協会)設立。

- ・「スポーツに関するフェミニズムの視点を明確化し促進し支援することによって、女性の状況を良くするために、またスポーツにおける女性の地位を高めるために」

1986年にスポーツカナダが「女性とスポーツに関する政策」を定式化し採用する。

PP38 (続き)

・1990年代：

CAAWSは、女性の(フェミニストの)組織(スポーツを通してその目的を推進しようとする)というより、女性のためのスポーツ組織(スポーツする女性の状況を改善していこうとする)へと傾斜していく。

議論が「平等(equality)」から「公平(equity)」へとシフトしていく。

CAAWSの焦点：ジェンダー・エクィティをカナダのアマチュアスポーツシステムへ組み込むこと；全国的な協力関係を築きながら。

CAAWSは、その使命声明や目標から「フェミニズム」という言葉への言及をすべて取り除く。

PP39 (続き)

・今日、私たちはどういう状況にいるのでしょうか？

新しい世代のフェミニズムがより若い女性を代表しています(第3波フェミニズム)

第2波フェミニズムは多くの女性を置き去りにしました(白人の中産階級の女性があらゆる女性を代表しているわけではありません)

人種、民族性、セクシュアリティ、階級、生まれた国なども同様に、より重要ではないにしても、女性が自らの人生をどのように経験するかに関わっていきます(アイデンティティ・ポリテイクス)

ジェンダーは一つの権力関係にすぎません。

PP40 (続き)

第3波フェミニズムの分析のほとんどは、スポーツ分野の「フェミニストたち」(まだジェンダー・エクィティに焦点を合わせています)には検討されていません。

ジェンダーの伝統的なリベラル・フェミニストの定義は時代遅れになっています：「女性」を、「男性」とは対立するもう一つ別のグループとして普遍的にカテゴリー化するというのは、主に

生物学的な差異に基づいています。

人種、能力、セクシュアリティ、階級などの要因に基づいた差異は、同様に重要かつ強力なものです。

PP41 (続き)

体育専攻の学生たちがフェミニストの分析を考えることはまずありません(もしそういう学生がいたとしても、履修できるコースがほとんどありません)

現在、カナダのスポーツ組織で働いたりボランティアしたりしている人々が何らかのフェミニストの分析に触れる機会もまずありません。

女性スポーツの諸組織も、女性擁護団体も、カナダ国民の多様性を反映していません。

要するに、フェミニズム運動とスポーツにおけるジェンダー・エクィティの運動との間にはほとんど関連がないのです。

PP42

変革のプロセスで大学等のフェミニズム研究者が果たす役割

やっとこの問題を議論することができるようになりましたが、ここでは私は次の三つの重要なポイントだけを指摘しておこうと思います。

PP43 (続き)

- ・ジェンダー平等の促進をめざす“新”戦略を分析し批判すること。
- ・フェミニズム的参加型の研究や活動を促進すること。
- ・研究者と現場の人々との間に広がるギャップの橋渡し作業をすること。

PP44

ジェンダーの平等の促進をめざす“新”戦略の分析と批判

例えば、ジェンダー・メインストリーミング

ジェンダー平等をあらゆるシステム、組織、団体の中にシステムティックに統合させること。

1995年、北京での第4回世界女性会議で採択された北京行動計画とともに広範に用いられるようになりました。

今では、国連、世銀、左右両陣営の多くの援助機関、行政部門、人権組織によって支持され、推進されています。

第5回ヨーロッパ女性スポーツ会議(2002年)によって受け入れられました。

PP45 (続き)

(ジェンダー・メインストリーミングのHP)

PP46 (続き)

- ・ジェンダー・メインストリーミングは機能しているでしょうか？

これまでのところ、成果は種々雑多なものです。

ジェンダー平等は、議題として存続しています。

単に到達点ではなく、到達へのプロセス。

女性特有のニーズはもはや主たる注目点ではありません。

男女間の権力関係に焦点を合わせる分析カテゴリーとしての“ジェンダー”は道に迷いつつあります。

周縁化された女性たち（例えば、移民女性たち）は、男性/女性の分析を優先させる政策では、十分に代表されているとは感じられませんし、誤って代表されていると感じています。

あらゆる女性のエンパワメントを保証することの方がより有効です。

PP47（続き）

こうした批判にもかかわらず、ジェンダーに基づいた研究やジェンダーに基づいた分析の重要性を軽んじてはなりません。

- ・ジェンダーに基づいた研究やジェンダーに基づいた分析の重要性

政策決定プロセスの早い段階で、その政策が女性に与える影響を分析すること。

ジェンダーに基づく分析を行うには、分析ツールを進展させ、よく練られたアプローチやデータを開発すること。

スポーツを取り巻く環境にいるあらゆる人々（例えば、政府、スポーツ団体、女性スポーツ擁護団体）との協力が必要。

PP48（続き）

- ・ジェンダーに基づいた分析の例

カナダの女性スポーツにおけるジェンダーに基づいた研究・分析の一例に、ブリティッシュコロンビア州の **pro MOTION Plus** という地方団体の仕事があり、これは申込に応じてジェンダー平等の審査や相談を行っています。www.promotionplus.orgで参照してください。

- pro MOTION Plus**
- ・ジェンダー・エクィティ審査
 - ・ジェンダー・エクィティ相談
 - ・www.promotionplus.org

PP49

フェミニズムの活動・研究を促進すること

・研究者は、地域のパートナーたちと協働して、研究課題を確認し、データを集め、活動を展開することになります。

- ・例：カンループスの女性行動プロジェクト

ブリティッシュコロンビア州健康研究財団によって設立されました。

貧困ライン以下の生活を送っている女性たちの健康に関わる諸問題に、地域のレクリエーションにもっと参加してもらうことによって対処しようと企画されました。

このプロジェクトはブリティッシュコロンビア州の他の三つの地域にも広がっています。

出典：『行動を起こす：低所得の女性たちにレクリエーションを提供するためにコミュニティを動員する』、女性の健康のためのブリティッシュコロンビア高等センター（2001）、

PP50

ギャップを橋渡しすること

- ・ 批判的な学問研究は、女性スポーツに関する新たな政策決定者や“フェモクラット(女性官僚)”によって無視されつつあります。
- ・ (彼ら/彼女らは)現状を批判する人々と連携するのを嫌がっているようです。
- ・ 全国的であれ国際的であれ、女性スポーツ運動はとも政府主導のものになってきています。

PP51 (続き)

- ・ 草の根的な組織者(や批判者)たちは、新たに加わってくる体裁のいい委員たちによって、ますます無視され、わきに押しやられ、解任されています。
- ・ 変革は、草の根的な組織者と批判的な学者たち両方によって、始められる必要があります。

PP52 (続き)

- ・ 国際的な女性スポーツ運動が発展して効力をもつようになるのは、この運動が、「それぞれの国で周縁化されている女性たちのところまで届く方法を見出し、その結果、現在の権力関係のあり方を変形し、恵まれない背景にある女性たちに“手を差し伸べて”、“その支持をえて”、彼女たちを再建のプロセスへと巻き込む」(ジェニファー・ハーグリーブズ, 『スポーツのヒロインたち』, p.231) ことができ始めてのことなのです。

PP53

カナダにおける(そして世界における)女性スポーツの未来

ここで私は、カナダにおける女性スポーツの未来について、そして少し話を広げて、現代の世界の様々な地域の女性スポーツの未来について、ほんの幾つかのことですが、短くコメントしておこうと思います。

PP54

カナダにおける女性スポーツの未来

- ・ 私たちの未来は、とても有望です。
- ・ スポーツや身体活動への参加率を減少させているのは、まさしく健康そのものに関わる問題です。
- ・ リーダーシップの問題には必死で取り組む必要があります(特に、女性コーチの不足という問題)。
- ・ 私たちは、エクィティの問題では、世界のリーダーであり続けましょう。

PP55

世界のリーダーとして、私たちは、様々な分野でリーダーシップを示すことができます

- ・ 例えば：
スポーツ運動に関わっている女性たちと、能力開発運動に関わっている女性たちの間との相互関係

PP56

女性、スポーツ、そして開発

- ・能力開発運動に関わっている女性たちはスポーツにはあまり焦点を合わせてきませんでした。
- ・スポーツにおける女性たち（WIS）運動は、やっと能力開発にも焦点を合わせ始めるようになりました。
- ・WIS は女性スポーツの発展に根ざしており、スポーツを通じた女性とその能力開発を主としているわけではありません。

（マーサ・サーヴェドラ、『女性、スポーツ、そして開発』、2005年）

PP57

最も有名な女性アスリートたちの何人かが、能力開発運動に積極的に携わり、他の人々に道を示しています。

写真は、クララ・ヒューズとシルケン・ラウマンですが、彼女たちはともに、プレイする権利運動に熱心に取り組んでいます。